

私の高校受験

私が広島商船高専を受験しようと思つたのは夏休みの頃だ。そこは他の高校とは違い、五年間専門的な知識について学ぶところだ。一学期の三者面談で家族にも初めて自分の進路先を話した。ここで私の勉強の目標が決まった。進路を決めた私は夏から入塾することになった。始めは復習問題で苦手部分を確認した。

後、そこを重点的に勉強していった。夏休みが終わり、つぎ学校と塾で忙しさを変わらなかつた。学びの成果が感じられ、いとよきであった。確か、正答数は上がっていた。

その努力が実を結んだのは二学期の期末テストだ。特に苦手だった数学と英語の成績が上がり、勉強に対する意欲を湧かしてきた。

国立高専の推薦入試は早い。一月の始めで冬休みの途中だ。たぶん、現在の中学校で

行つた面接練習は二回。家族と練習していてもやはり不安は残っていた。

そして迎えた受験当日。予想していた質問を頭の中で復唱しながら会場に入る。練習のおかげがすすすとした受け答えができたと思つた。あまり緊張しなかつた。感じたが面接が終わると足が震えていた。

合格発表は一週間後。その間に学校の冬休みは終わり、三学期に突入していった。ちょうど発表が土曜日に重なり、つぎまた学校

からの電話を待つ。結果は合格だった。後日聞くに推薦の倍率はすごく高かったらしい。安心して、張りつめていた緊張の糸が切れた。

心の底から頑張つて良かったと思えた。私はこの経験から勉強に大切なのは努力だと知った。広島商船高専に入学してからは変

わらず努力を続けた。い